

### (3) 啓発普及に向けたポイントの助言

(1)(2)を踏まえて、より具体的に啓発普及に向けたポイントについて助言を行う。本事業を成功に導くためには、(1)に述べたような条件があり、(2)で提示したような成功ポイントを踏まえることが重要と考える。そのためにも本事業の意義を広く啓発していくことが大切である。成果を広くアピールし、川上・川下企業が本事業参加のメリットに対する認識を深めることでさらなる参加企業を増やすことにつながるとともに、川中としてネットワーク構築に関わろうとする外部機関を拡大することも可能である。

以下に、啓発普及に向けたポイントを掲げる。

#### ① 成果発表会（その他の事業の活用を含む）の開催と、実施機関のホームページへの掲載やベストプラクティス集作成及びHP掲載・配布の検討

成果発表会の開催は、成果を広く世に問うことで新たな参加企業を募るうえで重要である。さらに結果を広く普及していくためにインターネットの利用は重要であろうと考えられる。インターネットを利用した成果発表については、自機関のホームページに掲載していると回答した機関は少ないのが実情である。しかし、インターネットの普及状況を考慮した時、予算的にも最も手軽で配布の手間もかからないことから、積極的な利用が望まれる。

#### ② 情報発信のための簡易なブログ方式のHPの開設・運営

①にも述べたようにインターネットの簡便性を考慮すると、現在普及が進んでいるブログ方式を採用することは、一般から見た場合にアクセスの垣根を引き下げることにもつながると考えられ、広範な技術者を巻き込むことで、各種研究フォーラムへの関心を高めることが期待できる。

#### ③ 開催予定の「中間発表会」、「最終成果発表会」の充実・強化

平成21年度も受託機関による「中間発表会」、「最終成果発表会」が開催されているが、事業完了後も事業を継続している機関が多いことを考慮すると、自主的に事業を継続している機関に対し有益な情報を提供することができると考えられる。

#### ④ 成果普及のためのシンポジウム、成果発表会等の開催検討

積極的な川上・川下企業を発掘するためには、事業に参加するメリットに対する認識を普及させることが重要であり、成果を広く公表することは最も重要な手段と考えられる。より積極的な成果発表会の開催と参加者を増やす試みが大切となる。

⑤ 業界・専門新聞・雑誌等のマスメディア等での成果情報の発信（事業毎の連続掲載等）

広域連携の必要性が高まっていることから、予算的な問題はあるものの、報道機関を利用するメリットは大きく、検討すべきと考える。

⑥ 研究成果等については、関連学会・業界研究会等での発表・寄稿等

成果を広く普及させるために有効な手段であるとともに、(2)の成功ポイントにあるように「川中」の利用拡大が望まれることから、新たな協力関係が生まれる場となる可能性もあり、積極的な活動が望まれる。

⑦ 川上・川下企業の関連団体・組織・クラスター等への働きかけ

川上・川下企業の積極的な参加だけでなく、先導的な川上・川下企業を発掘するためにも、これら組織との連携は重要であろう。さらにコーディネーターの活動強化や「目利き」力を増すためにも、専門的な知識を有するこれら組織からの協力は有効であろう。

⑧ 川上・川下ネットワーク構築事業の参加者・実施機関のフォーラムの検討

啓発普及に向けた活動として、参加者・実施機関がお互いに他の成功事例などを学ぶ機会は、スキルの向上だけでなく、モチベーションの向上にもつながると考えられ、全体的な事業の底上げという意味で重要であろう。特に新しく川上・川下ネットワーク構築を目指し始めた機関にとっては、長く取組を続けてきた先輩実施機関のノウハウを学ぶことができる場として、有効と考えられる。